

## 『矢作川研究』に投稿される方へのお願い

年報『矢作川研究』では、豊田市矢作川研究所の活動内容と成果をはじめ、矢作川流域や豊田市域の自然科学や社会科学に関するさまざまな報告を掲載しています。この『矢作川研究』への原稿掲載を希望される方は、投稿規定並びに執筆要領を熟読の上ご投稿ください。なお、掲載時期については紙面の都合上、ご希望に沿えない場合があります。

### 投稿規定

#### 1. 投稿者

どなたでもできます。

#### 2. 原稿のカテゴリー

原稿の内容は、矢作川流域や豊田市域の自然科学や社会科学に関連するもので、未発表のものに限ります。

原稿には、「調査・研究」・「その他」の2つのカテゴリーがあります。「調査・研究」は、「資料やデータに基づいて、考察や議論のなされた記事」でデータに重みのある（データ量が多い、データに貴重性がある、統計解析などを用いてデータの客観性が担保されている）論文調の記事とします。「その他」は上記の「調査・研究」以外の全ての内容を対象とします。この2つのカテゴリーのうち、「調査・研究」のみ記事の最初のページ左上に「調査・研究」と印字されます。

#### 3. 原稿の採否および校正

「調査・研究」のカテゴリーの原稿は、主に①全体を通じ論旨に破綻が無いか、②解析手法に誤りは無いか、③図表等に誤りは無いか、の3つの視点で原則2名以上での確認を行います。「その他」のカテゴリーの原稿については、矢作川流域等に関する原稿を広く掲載するという趣旨のもと、簡易な確認に留めます。

なお、編集委員会が内容的にふさわしくないと判断したものは、掲載をお断りすることがあります。また、掲載が決まった原稿も、編集委員会から手直しをお願いすることがあります。

#### 4. ページ数の制限及び原稿の受付

原稿の長さは刷り上がり20ページ以内とします(図表無しの場合1ページあたり約2,200文字)。このページ数を超える場合はご相談ください。

投稿を希望される方は、指定の期日までに、以下の連絡先までお知らせください。原稿は執筆要領に従って作成

し、指定の期日までに原稿の電子データ及び印刷用のPDFファイルを以下の連絡先にE-mailで送信してください。

投稿希望の連絡の期日及び、原稿を提出する際の指定の期日は、豊田市矢作川研究所Webサイトに掲載します。

豊田市矢作川研究所『矢作川研究』編集委員会

Tel : 0565-34-6860

E-mail : yahagi@yahagigawa.jp

#### 5. 別刷

50部までは無料となります。50部を超えて印刷を必要とする場合は著者の費用負担となります。ご希望の部数を明記してください。

#### 6. 付則

本誌に掲載されたすべての原稿の著作権は豊田市矢作川研究所に帰属しますが、著者による著作物転用の場合のみ許可の申請は必要ありません。

## 執筆要領

原稿は原則、以下に従って執筆してください。

### 1. 原稿

原稿は和文か英文で A4 判の横書きに上下左右の余白を 3 cm とし、ダブルスペース（目安：30 行程度／ページ）、行番号（連続番号）付きのデジタルデータで作成してください。

### 2. 記載形式

記載形式は原稿のカテゴリー（「調査・研究」か「その他」のいずれか）、表題（和文・英文を併記）、簡略表題（20 字程度、印刷物の右頁上段に印刷されるもの）、著者名（和文\*・英文を併記、\*姓または名が 1 文字の場合には間を 1 マスあける、文献情報の著者名も同様）、著者の住所、要約（本文が和文なら英文、本文が英文なら和文）、キーワード（5 個以内）、はじめに、調査地と方法、結果、考察、謝辞、引用文献、図表のキャプション、図表などの順としてください。和文要約は必須としますが、英文要約の併記は任意とします。

### 3. 活字指定

動植物種名は基本的にカタカナ表記とし、初出には学名（属名および種小名）をイタリックで付記してください。数字は英文フォントとし、単位との間には半角スペースを入れてください（° や%は例外）。なお、句読点（.）および（,）としてください。

### 4. 図・表・写真

図、表、写真は 1 つずつ別紙にしてそれぞれ通し番号（図 1、表 1 など）を付けてください。なお、地図については縮尺および方位を入れてください。図、表、写真のキャプション（タイトル及び説明文）は別紙にまとめて書き、添付してください。写真および一部の図のみカラーを指定できますが、都合によりできない場合もあります。また、図・表・写真を引用、転載する場合は、著者自身が事前に著作権者に許可を受けてください。

### 5. 文献

文献は文中に引用したものだけを引用文献とし、すべて記載してください。参考文献の記載を希望する場合は、

引用文献の後に記載してください。いずれの場合も、第一著者の姓の ABC 順に表記してください。

文献の表記は以下のようにしてください。

a) 雑誌論文：著者名（年号）表題. 掲載雑誌名, 巻\* : ページ.

中村太士 (1995) 河畔域における森林と河川の相互作用. 日本生態学会誌, 45 : 295-300.

田中 蕃・新見幾男 (2006) 矢作川の未来. 矢作川研究, 10 : 259-372.

Vannote, R. L., G. W. Minshall, K. W. Cummins, J. R. Sedell and C. E. Cushing (1980) The river continuum concept. *Canadian Journal of Fisheries and Aquatic Sciences*, 37 : 130-137.

\*号のみの雑誌は号数を入れて下さい。また、1 巻の中が通しページではなく号によって異なる雑誌は、巻の後に丸括弧でくくった号数を入れてください。

b) 単行本の全部：著者名（年号）表題. 発行所.

Allan, J. D. (1995) *Stream ecology: Structure and Function of Running Waters*. Chapman & Hall .

大井次三郎・北川政夫 (1992) 新日本植物誌 顕花篇. 至文堂.

c) 単行本の章または分冊：著者名（年号）章題. 表題, 編者名 : ページ. 発行所.

服部 保 (1988) 農耕文化と植物社会. 日本の植生侵略と攪乱の生態学, 矢野悟道 (編著) : 22-61. 東京大学出版会.

Lowe, R. L. and Y. Pan (1996) Benthic algal communities as biological monitoring. In *Algal Ecology: Freshwater Benthic Ecosystems*, R. J. Stevenson, M. L. Bothwell and R. L. Lowe (eds.): 705-739. Academic Press.

d) Web サイト：発行者名：資料・ページ表題. URL (閲覧日). 同じ発行者の場合には, a,b,c... を補ってください.

気象庁 a : 過去の気象データ検索. <http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php> (2020 年 1 月 1 日 閲覧).

e) 文中での文献の引用は、以下の例に従ってください。発行年が古い順、同じ発行年の場合には第一著者の姓の ABC 順とします。同じ著者名の場合には発行年のみ追加する形で表記してください。Web サイトの引用と列

挙す場合には、発行年のある文献の後に ABC 順で配置してください。

鈴木・津田 (1991) は\_\_

(2000 年 7 月 制定)

\_\_ 報じられている (高須, 1999 ; 辻本ほか, 1999) .

(2003 年 6 月 改正)

\_\_と考えられる (Biggs et al. 1992 ; 林, 1997a,

(2004 年 3 月 改正)

1997b, 2000) .

(2009 年 2 月 改正)

(2017 年 2 月 改正)

## 6. 注

(2020 年 4 月 改正)

注をつける場合は、本文中該当箇所の右肩に通し番号 1), 2) のように記し、本文の後にまとめて掲載してください。

(2024 年 4 月 改正)

(2025 年 5 月 改正)

(2026 年 5 月 改正)